



インストール ガイド

Release 10.0

© 2002, 2003 Unify Corporation. All rights reserved. Sacramento California, USA

No part of this document may be reproduced, transmitted, transcribed, stored in a retrieval system, or translated into any language or computer language, in any form or by any means, electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, manual or otherwise without the prior written consent of Unify Corporation.

Unify Corporation makes no representations or warranties with respect to the contents of this document and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Further, Unify Corporation reserves the right to revise this document and to make changes from time to time in its content without being obligated to notify any person of such revisions or changes.

The Software described in this document is furnished under a Software License Agreement. The Software may be used or copied only in accordance with the terms of the license agreement. It is against the law to copy the Software on tape, disk, or any other medium for any purpose other than that described in the license agreement.

The Unify Corporation Documentation Group values and appreciates any comments you may have concerning our documents. Please address comments to:

doc@unify.com

(800) 468-6276 or (800) 468-6343; 916-928-6400

FAX (916) 928-6401

UNIFY, ACCELL, VISION, DataServer, and the Unify Logo are registered trademarks of Unify Corporation. Unify NX^J is a trademark of Unify Corporation. UNIX is a registered trademark of The Open Group in the United States and other countries. Borland is a registered trademark of Borland Software Corporation. BEA WebLogic is a registered trademark of BEA Systems, Inc. IBM and WebSphere are trademarks or registered trademarks of International Business Machines Corporation. The X Window System is a product of the Massachusetts Institute of Technology. SYBASE is a registered trademark, and SQL Server, DB_Library, and Open Server are trademarks of Sybase, Inc. INFORMIX is a registered trademark of a subsidiary of IBM. ORACLE is a registered trademark of Oracle Corporation. Sun is a registered trademark, and SunView, Sun_3, Sun_4, X11/NeWS, SunOS, PC_NFS, and Open Windows are trademarks of Sun Microsystems. All SPARC trademarks are trademarks or registered trademarks of SPARC International, Inc. SPARCstation is licensed exclusively to Sun Microsystems, Inc. Microsoft, MS, and Windows are registered trademarks of Microsoft. All other products or services mentioned herein may be registered trademarks, trademarks, or service marks of their respective manufacturers, companies, or organizations.

目次

1. Unify NX^J のインストールの準備	1
タスク 1: ターゲット環境のタイプを決定	1
開発環境	1
実行環境	3
タスク 2: アプリケーションサーバの取得(オプション)	5
タスク 3: システム要件に適合していることを確認	6
タスク 4: 必要なサードパーティツールの取得	7
タスク 5: ホームディレクトリと作業ディレクトリの指定	7
ホームディレクトリ	8
作業ディレクトリ	9
2. インストールプログラムの実行	10
標準セットアップ(ダイアログベース)	10
カスタムセットアップ(ダイアログベース)	11
テキストベース(UNIX のみ)	11
インストール完了後	12
3. インストール後のタスク	13
タスク 1: 製品の起動方法を理解する	13
タスク 2: マニュアルを参照する方法を理解する	14
タスク 3: サンプルアプリケーションの実行	16
タスク 4: チュートリアルアプリケーションの実行	17
タスク 5: 既存の NX ^J アプリケーションを更新	17
既存のプロジェクトを更新する	17
チュートリアルプロジェクトのリセット	18
Web ブラウザのキャッシュをクリアする	18

4. Unify NX ^J をアンインストールする	19
5. JBoss デフォルトポートの割り当て	20

Unify NX^J のインストールの準備

1

この章では、Unify NX^J をインストールする前に必要な作業について説明します。

Unify NX^J には、NX^J 製品のコンポーネントの他にも JBoss アプリケーションサーバがバンドルされています。Standard Edition ライセンスでは、Unify NX^J インストール時に JBoss アプリケーションサーバが自動的にインストールされます。Enterprise Edition では、このリリースの Unify NX^J で使用が認められている任意のアプリケーションサーバが使用できます。他のアプリケーションサーバを選択した場合、JBoss アプリケーションサーバは自動的にインストールされません。

この章には、Unify NX^J インストールプログラムで表示されるプロントへの入力に必要な情報が説明されています。

タスク 1：ターゲット環境のタイプを決定

Unify NX^J はアプリケーション開発環境と実行環境（実稼働環境または配備環境とも言われる）の両方で使用します。どちらの環境にも、Unify NX^J 製品のどのコンポーネントをインストールし、どのように設定するかを決定するライセンスキーがあります。

開発環境

開発環境とは、NX^J アプリケーションを開発し、テストを行う環境です。開発環境では、以下のコンポーネントがインストールされます。

- NX^J デザインセンタ
- NX^J インタラクションサーバ
- NX^J が提供するアプリケーションサーバ：JBoss（オプション）

- オプションで、NX^J コントロールセンタがデフォルトサーバに配備されます。これは、NX^J デザインセンタからのアプリケーションの配備をサポートするために必要です。

Unify NX^J 開発環境を完全に作成するために、これらのコンポーネントがサードパーティのデータベースや Web ブラウザと結合されます。これらのコンポーネントの詳細については、[7 ページの「タスク 4: 必要なサードパーティツールの取得」](#)を参照してください。

以下の図には、これらのコンポーネントの論理的な相互の関連性を示しています。

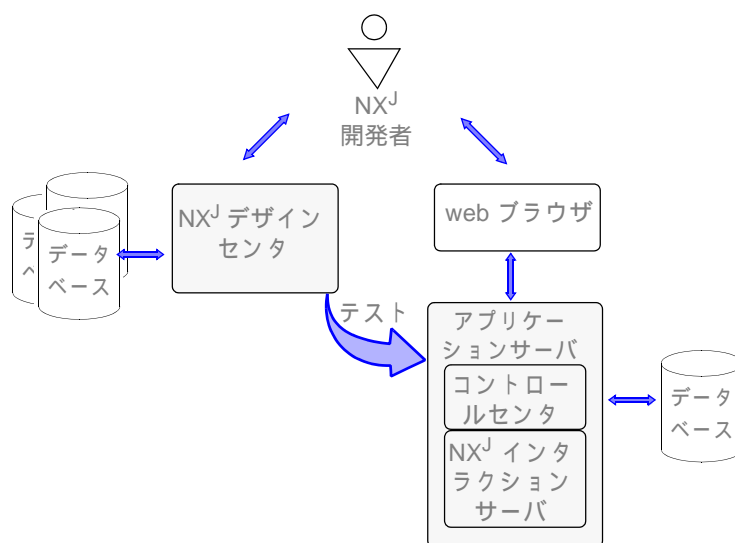
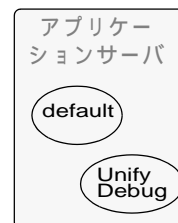


図 1-1 Unify NX^J の開発環境

インストール時に、次の開発環境が設定されます。

- アプリケーションサーバコンポーネント内に、デフォルトサーバのインスタンスとデバッグサーバのインスタンスが作成されます。

ほとんどのアプリケーションサーバのデフォルトサーバインスタンスには、“default” という名前が設定されますが、Oracle9iAS アプリケーションサーバのデフォルトサーバには“home”、BES アプリケーションサーバのデフォルトサーバには“standard” という名前が設定されます。デフォルト



サーバは、アプリケーションの設計が設計者の要求に合っているかどうかを判断するために、アプリケーションをテストする時にコントロールセンタで使用します。デバッグサーバインスタンスは、NX^J デバッガを使ってアプリケーションをテストするために使用します。デバッグサーバには個別の JVM 設定やパラメータが必要なため、アプリケーションサーバインスタンスも個別に必要です。すべてのアプリケーションサーバのデバッグサーバインスタンスに“UnifyDebug”という名前が設定されています。“UnifyDebug”は、NX^J デザインセンタからアプリケーションのデバッグをサポートするために必要です。

実行環境

実行環境は、NX^J アプリケーションを配備して管理する環境で、アプリケーションのエンドユーザがアクセスします。実行環境では、以下のコンポーネントがインストールされます。

- NX^J インタラクションサーバ
- NX^J が提供するアプリケーションサーバ：JBoss（オプション）
- オプションで、NX^J コントロールセンタがデフォルトサーバに配備されます。これは、NX^J コントロールセンタからの配備をサポートするために必要です。このオプションを使用しない場合は、アプリケーションサーバベンダー独自の配備ツールを使用する必要があります。

開発環境の場合と同じように、これらのコンポーネントも、Unify NX^J 実行環境を完全に作成するために、1つまたは複数のデータベースや Web ブラウザと結合されます。これらのコンポーネントの詳細については、[7 ページの「タスク 4: 必要なサードパーティツールの取得」](#)を参照してください。

以下の図には、これらのコンポーネントの論理的な相互の関連性を示しています。

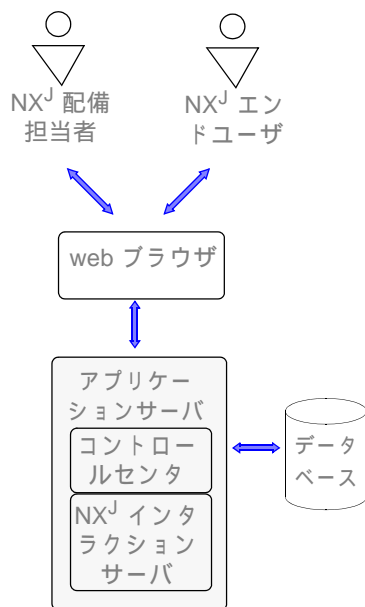


図 1-2 Unify NX^J の実行環境

インストール時に、次の実行環境が設定されます。

- 開発環境の場合と同じように、デフォルトサーバインスタンスが作成されます。これは、NX^J コントロールセンタを使って、NX^J アプリケーションに配備されるサーバインスタンスです。

NX^J アプリケーションの実稼働配備を行うには、実行ライセンスを購入する必要があります。開発ライセンスでは、3 接続分しか実行できません。Standard Edition の開発ライセンスの場合、実行ライセンスがサポートするのは JBoss だけです。



タスク 2：アプリケーションサーバの取得（オプション）

Unify NX^JにはJBoss アプリケーションサーバがバンドルされており、デフォルトでインストールされます。Unify NX^Jが提供するアプリケーションサーバを使用しない場合は、サードパーティのベンダーから別のアプリケーションサーバを取得してインストールすることができます。現在、Unify NX^Jで動作するアプリケーションサーバ製品は以下のとおりです。

- BEA WebLogic
- Borland Enterprise サーバ
- IBM WebSphere
- JBoss
- Oracle9iAS

アプリケーションサーバ製品は、Unify NX^Jがサポートしているものだけをご使用ください。サポートされているアプリケーションサーバ製品名とバージョンについては、NX^J ReadMe を参照してください。

NX^Jのインストール中に、インストールプログラムは、必要なサーバインスタンス（開発環境では default と UnifyDebug、実行環境では default）を設定するためにアプリケーションサーバに接続します。インストールプログラムが必要な情報を得ることができない場合、情報の入力を求められることがあります。

どのような情報が必要かは、アプリケーションサーバ製品によって異なります。以下の表では、各アプリケーションサーバに必要な情報を要約しています。

表 1-1 NX^J インストールプログラムに必要な情報 (1/2)

BEA WebLogic	
ドメインディレクトリ	7.0 以降の場合は、BEA WebLogic の DOMAIN_HOME。
インストールディレクトリ	BEA WebLogic の WL_HOME。
ホストとポート	WebLogic Administration Server が実行しているホスト名とポート。
権限	サーバの起動権限を持つロールのユーザ名とパスワード。

表 1-1 NX^J インストールプログラムに必要な情報 (1/2)**Borland Enterprise サーバ**

インストールディレクトリ	Borland Enterprise サーバインストールレーションを含むディレクトリ。
管理ポート	Borland Enterprise サーバの管理ポート番号。デフォルトは 42424。

IBM WebSphere

NX^J インストールプログラムでは設定されません。

JBoss

Web Service ポート	Webserver サービスのポート。
Naming Service(JNDI) ポート	Naming サービスのリスニングポート。JBossNS サービスとも言う。
Webserver Service(Jetty) ポート	HTTP リスナポート。HTTP 接続が承認されるポート。Jetty jmx コンソールアプリケーションもこのポートでアクセスされる。
Invoker Service(RMI) ポート	RMI サービスソケットのリスニングポート。
InvocationLayer Service (JMS-UIL2) ポート	Java Message Services (JMS) に関連するサービスが実行されているポート。
Hypersonic Service ポート	Hypersonic データベースがリスニングしているポート。

Oracle9iAS

インストールディレクトリ	Oracle home ディレクトリ。
権限	サーバの起動権限を持つロールのユーザ名とパスワード。

タスク 3 : システム要件に適合していることを確認

Unify NX^J 開発環境に使用するホストは Windows ホストです。実行環境のホストは Windows、UNIX または Linux です。

ターゲットホストの OS のバージョンとシステム要件については、NX^J ReadMe を参照してください。

タスク 4：必要なサードパーティツールの取得

Unify NX^J 開発環境と実行環境では、以下のサードパーティツールが必要です。

- Web ブラウザ

実行環境では、NX^J アプリケーションのエンドユーザは、エントリポイントの JSP ページに Web ブラウザからアクセスします。また、アプリケーション配備担当者も Web ブラウザから NX^J コントロールセンタにアクセスします。

開発環境では、アプリケーションをテストして Web ブラウザでフォームを表示します。

Web ブラウザは Internet Explorer と Netscape Navigator の両方がサポートされます。使用できる Web ブラウザのバージョンについては、NX^J ReadMe を参照してください。

- データベース

NX^J アプリケーションからデータベースにアクセスする必要がある場合、開発環境と実行環境の両方のホストでデータベースが利用できる必要があります。ほとんどのデータベースについては、必要な JDBC ドライバは Unify NX^J に同梱されています。Informix、MySQL、MS SQL の運用版の場合、ReadMe に記載されている方法で、ベンダーの Web サイトから JDBC ドライバをダウンロードする必要があります。IBM DB2 の場合、必要な JDBC ドライバは IBM DB2 クライアントインストールの一部に含まれています。

Unify NX^J で使用される JDBC ドライバの詳細については、『Unify NX^J 開発者ガイド』の第 3 章「プロジェクトの設定」で「プロジェクトの作成」を参照してください。

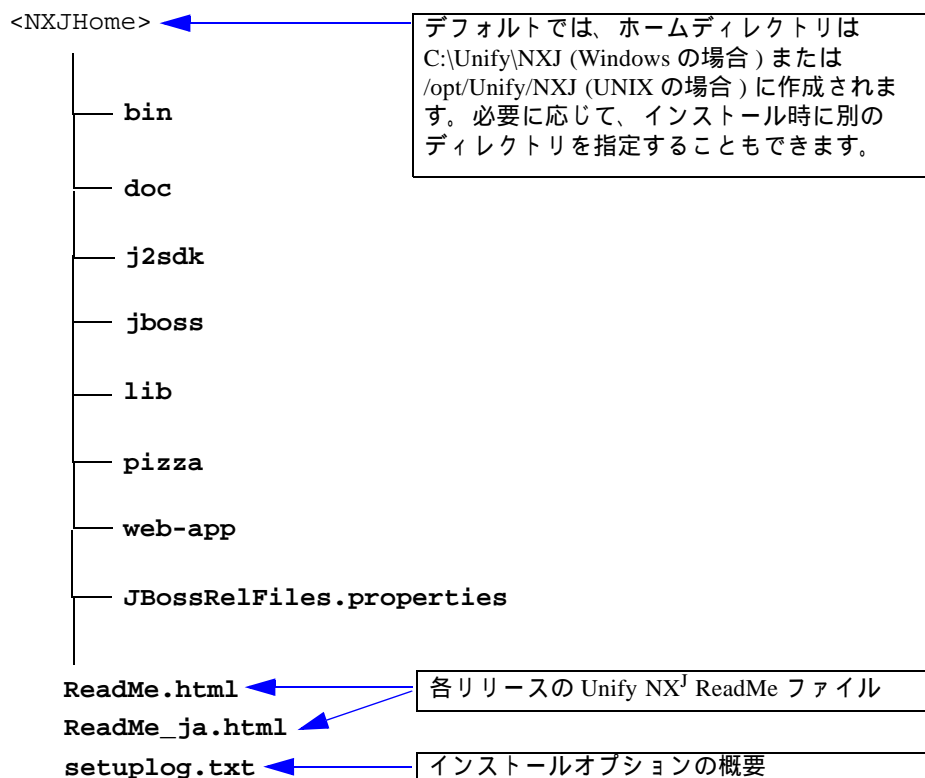
タスク 5：ホームディレクトリと作業ディレクトリの指定

Unify NX^J のファイルは 2 つのディレクトリに置かれています。ホームディレクトリと作業ディレクトリです。このようにすると、アプリケーションコードとソフトウェア本体を別々に管理できます。作業ディレクトリで作成されたディレクトリやファイルは、Unify NX^J のアンインストール時に削除されたり、更新時に上書きされることがありません。

以下のセクションでは、それぞれのディレクトリについて説明します。

ホームディレクトリ

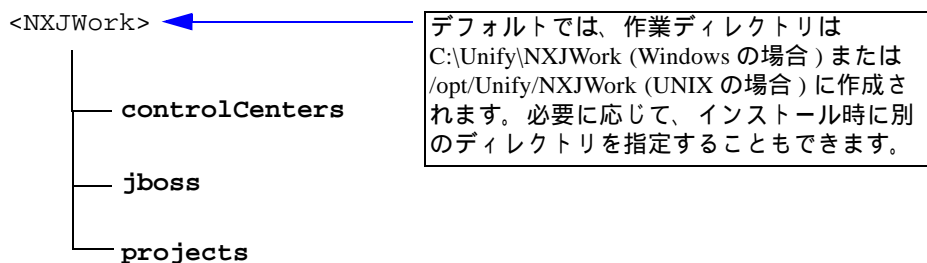
ホームディレクトリには Unify NX^J 本体のファイルが含まれています。ホームディレクトリの構造は以下のとおりです。



このマニュアルでは、ホームディレクトリを <NXJHome> と表します。

作業ディレクトリ

作業ディレクトリには、Unify NX^J のサンプルプロジェクトとチュートリアルプロジェクトが含まれています。ユーザのプロジェクトもここに含まれます。作業ディレクトリの構造は、以下のとおりです。



このマニュアルでは、作業ディレクトリを <NXJWork> と表します。

この章に記載されている準備が完了したら、次の章で説明するインストールプロセスが開始できます。

インストールプログラムの 実行

2

Unify NX^Jには、以下のインストール方法があります。

- 標準セットアップ (ダイアログベース)
- カスタムセットアップ (ダイアログベース)
- テキストベース (UNIX のみ)

標準セットアップ (ダイアログベース)

このセットアップでは、開発環境と実行環境のどちらでも Unify NX^J を簡単にインストールできます。インストールプログラムは可能な限りデフォルトのインストールオプションを使用します。JBoss アプリケーションサーバがインストールされます。

Unify NX^J の評価用の CD からインストールする場合は、フラッシュ画面と Unify NX^J の評価の参考になる追加情報も表示されます。“Install NX^J” を選択すると、ここで説明する標準のセットアップが表示されます。Unify NX^J の評価用の CD には評価用ライセンスが付属しています。

このタイプのインストールを実行する手順は以下のとおりです。

1. CD ドライブにソフトウェアの CDROM を挿入します。

インストールの開始ページが表示されます。

2. **次へ** ボタンをクリックします。

ライセンスキーページが表示されます。

3. 必要であればライセンスキーを取得します。

Unify NX^J にはライセンスキーが必要です。インストールプログラムではライセンスキーの入力が求められます。

キーを取得したら、ライセンスキー フィールドにカット & ペーストできます。

Unify NX^J インストールプログラムのパネルの指示に従って**次へ** ボタンをクリックしていくと、セットアップタイプ パネルが表示されます。

4. セットアップタイプ パネルに移動するために、**次へ** ボタンをクリックします。
5. セットアップタイプパネルで、標準オプションがデフォルトで選択されます。

残りのパネルの指示に従い、Unify NX^J のインストールを完了します。

注 – JBoss アプリケーションサーバは、各 Web サービスにいくつかのポートの割り当てを必要とします。可能であれば、デフォルトのポート番号が使用されます。そうでない場合はインストールプログラムは、概要パネルに表示される異なるポート番号を割り当てます。JBoss のデフォルトのポート番号のリストについては、[20 ページの「JBoss デフォルトポートの割り当て」](#)を参照してください。

カスタムセットアップ (ダイアログベース)

この方法では、使用環境に最も適したインストールオプションが指定できます。例えば、どのアプリケーションサーバを使用するか、コントロールセンタを配備するかを選択することができます。

このタイプのインストールを行うには、[10 ページ](#)の手順 1 から 4 を実行し、セットアップタイプ パネルでカスタム を選択します。

残りのパネルの指示に従い、Unify NX^J のインストールを完了します。

JBoss のポート番号に関して、上記の注意を参照してください。

テキストベース (UNIX のみ)

UNIX ホストの実行環境で Unify NX^J をインストールする場合は、この方法を使用します。テキストベースなので、グラフィックディスプレイのデバイスにアクセスできないネットワークのホストにも、この方法を使ってインストールできます。例えば、リモートホストに telnet で接続する場合などです。

このタイプのインストールを実行するには、CD ドライブにソフトウェアの CDROM を挿入します。

ファイルマネージャ ウィンドウが表示されたら、以下の操作を実行します。

1. CDROM のディレクトリを開き、setup.sh をダブルクリックします。

Action : Run ダイアログが表示されます。

2. 引数フィールドに -text を入力します。

3. Enter を押下します。

Unify NX^J のインストールプログラムがテキストで表示されます。残りの指示に従い、Unify NX^J のインストールを完了します。

ファイルマネージャ ウィンドウが表示されなければ、以下の操作を実行します。

1. CDROM が搭載されているディレクトリに移動します。

2. setup.sh -text を実行します。

Unify NX^J のインストールプログラムがテキストで表示されます。残りの指示に従い、Unify NX^J のインストールを完了します。

インストール完了後

Unify NX^J が正しくインストールされると、それぞれの環境のコンポーネントが [2 ページの図 1-1](#) と [4 ページの図 1-2](#) のように構成されます。

- 開発環境 : NX^J デザインセンタ、NX^J インタラクションサーバ、デフォルトサーバ、デバグサーバ。オプションとして、配備済みコントロールセンタとデータソース定義。データソース定義はサンプルとチュートリアルアプリケーションに必要です。
- 実行環境 : NX^J インタラクションサーバ、デフォルトサーバ。オプションとして、配備済みコントロールセンタ。

選択したインストールオプションの概要は、<NXJHome> の setuplog.txt ファイルに書きこまれています。インストール後に実行するタスクもあります。インストール後のタスクは次の章で説明します。

この章では、Unify NX^J のインストール後に実行する一般的なタスクを説明します。

タスク 1 : 製品の起動方法を理解する

Windows で NX^J デザイン センタを起動するには、**スタート > プログラム > Unify NXJ > デザインセンター** を選択します。コントロールセンタにアクセスするには、**スタート > プログラム > Unify NXJ > コントロールセンター > *ControlCenterName*** を選択します。*ControlCenterName* はコントロールセンタの名称です。デフォルトは “ControlCenter” です。

UNIX と Windows でコントロールセンタにアクセスするには、Web ブラウザで以下の URL を指定します。

```
http://<host>:<port>/<ControlCenterName>
```

この場合：

<host> は、NX^J コントロールセンタが配備されたホスト名です。

<port> は、アプリケーションサーバの http ポート番号で、デフォルトのアプリケーションサーバの構成時に指定されます。デフォルトは、使用しているアプリケーションサーバに固有です。

<*ControlCenterName*> は NX^J コントロールセンタの名称で、NX^J コントロールセンタの配備時に指定されます。デフォルトは “ControlCenter” です。

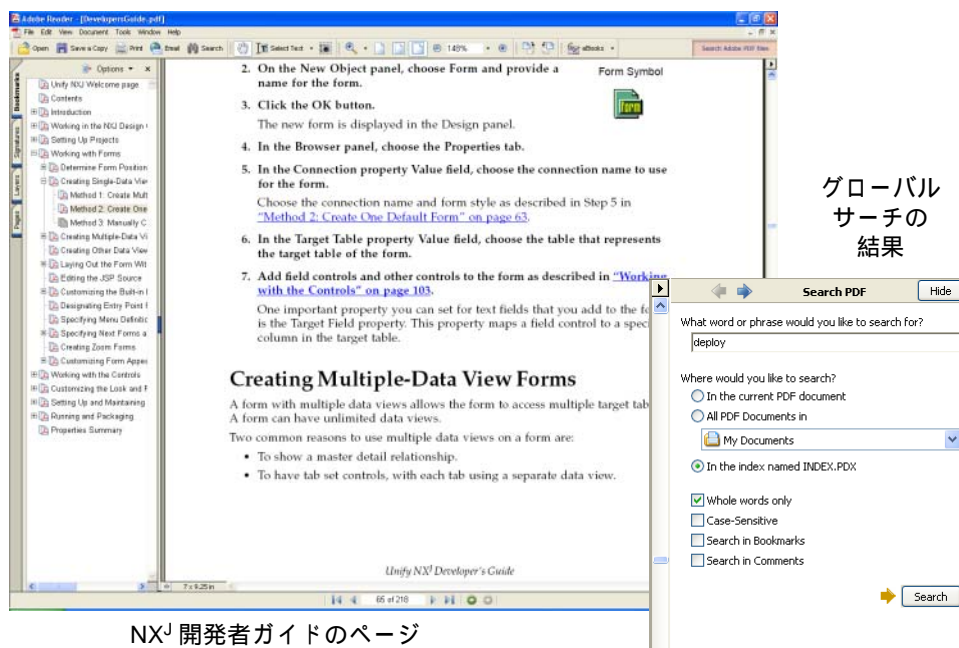
インストール時にコントロールセンタが配備されなかった場合は、**ccmanage** ユーティリティを使って配備できます。インストールプログラムを再実行する必要はありません。**ccmanage** ユーティリティについては、『Unify NX^J 管理者ガイド』の付録 A 「ccmanage ユーティリティ」を参照してください。

NX^J インタクションサーバを起動する必要はありません。NX^J インタクションサーバは、配備したアプリケーションからエントリにアクセスすると自動的に起動します。

配備する前に、デフォルトアプリケーションサーバを起動しておきます。JBoss アプリケーションサーバの起動と停止については、『Unify NX^J 管理者ガイド』の付録 E 「JBoss アプリケーションサーバの使い方」を参照してください。他のアプリケーションサーバの起動と停止については、各アプリケーションサーバのマニュアルを参照してください。

タスク 2：マニュアルを参照する方法を理解する

基本的に、Unify NX^J のマニュアルは NX^J デザインセンタや NX^J コントロールセンタのヘルプメニューから参照できます。マニュアルは PDF 形式となっており、Acrobat Reader で表示します。NX^J デザインセンタのマニュアルは、Acrobat のグローバルサーチに対応しています。これらにアクセスして検索する場合は Acrobat Reader を使用してください。NX^J コントロールセンタには、検索機能がありません。



jBiz Javadoc も NXJ デザインセンタのヘルプメニューから参照できます。Javadoc は、HTML 形式のマニュアルです。

ReadMe ファイルは、<NXJHome> ホームディレクトリに ReadMe.html という名前です。Windows のスタートメニューから ReadMe ファイルを開くには、**スタート > プログラム > Unify NXJ > 初めにお読みください** を選択します。

注 – 日本語版の ReadME は、<NXJHome> ホームディレクトリに ReadMe_ja.html という名前です。そちらを参照ください。

Supplemental Documentation (マニュアルの追加情報) のページでは、次のリリースまでのマニュアルの最新情報を入手できます。このページの URL は次のとおりです。

<http://www.unify.com/products/nxj/documentation/supplemental/index.htm>

また、Unify テクニカルサポート FAQ は以下のサイトより利用できます。

<http://support.unify.com/faq/faq.php>

タスク 3 : サンプルアプリケーションの実行

Unify NX^J にはすべての機能が利用できる注文 / 請求のサンプルアプリケーションが用意されています。サンプルアプリケーションには Unify NX^J の機能が盛り込まれています。サンプルアプリケーションを利用すると、Unify NX^J アプリケーションの開発方法と配備方法が理解できます。このサンプルアプリケーションを、実際の NX^J 注文処理アプリケーションのテンプレートとして使用することもできます。

Invoice #	Order #	Invoice Date	Total Amount	Date Paid	Amount Paid
89954	111384	01/17/2003	1,421.27	02/21/2003	1,421.27
89957	111388	01/17/2003	3,479.72	02/21/2003	3,479.72
89971	111408	01/21/2003	1,286.28		0.00
90194	111759	03/19/2003	87,615.76		0.00
90221	111822	03/25/2003	3,282.75		0.00

Status	Paid	Amount Outstanding	0.00	Due Date	02/16/2003	Overdue	
--------	------	--------------------	------	----------	------------	---------	--

デフォルトでは、このサンプルアプリケーションのプロジェクトは、インストール後に初めて NX^J デザインセンタを起動すると表示されます。それ以外の場合にサンプルアプリケーションを開くには、**ファイル > プロジェクトを開く > <NXJWork> > projects > examples > ordinv > ordinv.prj** を選択します。

サンプルアプリケーションを実行するには、**実行** ボタンをクリックします。



実行ボタン

サンプルアプリケーションには独自のヘルプシステムがあります。サンプルアプリケーションのヘルプは、ヘルプのリンクをクリックするか、Web ブラウザで

<NXJWork>\projects\examples\ordinv\sources\Static_Content\html\help\help.html を指定すると利用できます。

タスク 4：チュートリアルアプリケーションの実行

Unify NX^J には、NX^J アプリケーションの開発、テスト、配備、実行プロセスの基本を、あらかじめ設定されたプロジェクトとデータベースを使って説明するチュートリアルアプリケーションとマニュアルが用意されています。チュートリアルには、いくつかのレッスンがあります。興味のある箇所を選んで Unify NX^J を試してみましょう。

チュートリアルアプリケーションは、Rofida という架空の会社の経費報告システムに基づいています。チュートリアルを開始する方法については、『Unify NX^J チュートリアル』のマニュアルを参照してください。NX^J デザインセンタから、**ヘルプ > Tutorial** を選択します。



タスク 5：既存の NX^J アプリケーションを更新

このセクションでは、既存の NX^J リリースについて新バージョンの Unify NX^J をインストールする場合に実行するタスクを説明します。

既存のプロジェクトを更新する

以前のリリースの Unify NX^J で開発した NX^J アプリケーションを変更するには、アプリケーションを更新する必要があります。

以前のリリースの Unify NX^J で作成した（コンパイルした）プロジェクトを開くと、プロジェクトを現在のリリースに更新するかどうかを NX^J デザインセンタからたずねられます。はい を選択してプロジェクトを更新します。その場合、プロジェクトは以前のバージョンの Unify NX^J で開けなくなります。

配備したアプリケーションを更新する必要はありません。アプリケーションは以前のリリースと同じように実行されます。

コントロールセンタは、インストールプログラムによって自動的に更新されます。

チュートリアルプロジェクトのリセット

他の人がチュートリアルのレッスンを実行した場合、チュートリアルプロジェクトをリセットする必要があります。チュートリアルプロジェクトファイルをリセットするには、NX^J デザインセンタでヘルプ > チュートリアルのリセット を選択します。チュートリアルのリセット コマンドにより、<NXJWork>\projects のチュートリアルファイルが更新されます。

Web ブラウザのキャッシュをクリアする

Web ブラウザは、Web ページで使用したイメージをローカルキャッシュに保存します。Unify NX^J の新リリースのイメージがキャッシュのイメージと異なる場合があります。また、NX^J アプリケーションのイメージが更新されている場合もあります。キャッシュに、以前のバージョンと同じ名前のイメージがあれば、以前のバージョンのイメージが使用されます。

Web ブラウザのローカルキャッシュからすべてのイメージを削除する手順は、以下のとおりです。

- Internet Explorer では、**ツール > インターネットオプション** を選択します。全般パネルで、“インターネット一時ファイル”の**ファイルの削除** ボタンをクリックします。
- Netscape Navigator では、**編集 > 設定 > 詳細 > キャッシュ** を選択します。キャッシュパネルで、**ディスクキャッシュをクリア** ボタンをクリックします。

Unify NX^J を アンインストールする

4

Windows で Unify NX^J をアンインストールするには、アプリケーションの追加 / 削除ダイアログを使用します。このダイアログにアクセスするには、**スタート > 設定 > コントロールパネル > アプリケーションの追加 / 削除** を選択します。Unify NX^J を選択し、**削除** ボタンをクリックします。NX^J のアンインストールを行う場合、他の Unify プログラムが実行していないことを確認してください。

Unix で Unify NX^J をアンインストールするには、まずデフォルトサーバとデバッグサーバをシャットダウンして、その後で以下のディレクトリを削除します。

- <NXJHome>
- <NXJWork>

これらのディレクトリの位置については、[7 ページの「タスク 5 : ホームディレクトリと作業ディレクトリの指定」](#)を参照してください。

アンインストールする Unify NX^J インストールに JBoss アプリケーションサーバが組み込まれている場合、同時にアンインストールされます。JBoss アプリケーションサーバが組み込まれていない場合、Unify NX^J をアンインストールしてもアプリケーションサーバファイルは影響を受けません。

JBoss デフォルトポートの 割り当て

A

表 A-1 は、JBoss アプリケーションサーバ インスタンスのためのデフォルトポートの設定を含んでいます。

表 A-1 JBoss デフォルトポート番号

アプリケーションサーバ インスタンス	ポートの説明	デフォルト ポート番号
default	Web Service ポート	8083
	Naming Service(JNDI) ポート	1099
	Webserver Service(Jetty) ポート	8080
	Invoker Service(RMI) ポート	4445
	InvocationLayerService (JMS-UIL2) ポート	8093
	Hypersonic Service ポート	1476
UnifyDebug	Web Service ポート	18083
	Webserver Service(Jetty) ポート	18080
	Naming Service(JNDI) ポート	11099
	Invoker Service(RMI) ポート	14445
	InvocationLayer Service (JMS-UIL2) ポート	18093
	Hypersonic Service ポート	11476

Unify NX¹ のインストール中に、デフォルトポートが使用されていた場合、どのサービスにも異なるポート番号が割り当てられます。インストールログは、アプリケーションサーバ インスタンスによって使用される実際のポート番号を含んでいます。